

H30 学校評価総合シート 保護者

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	成果と課題	改善策・向上策	
教育課程 ・ 学習指導	児童の実態を的確に把握し、児童の思いや実態に沿った授業づくりに取り組む。	小学部 保護者	子どもの思いや実態に応じた目標や指導方法について、クラスの教員と話し合いができたか。(満足度指標)	A 16 57%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、児童の指導の在り方についてや保護者への伝え方について学部全体で検討する。	児童の実態や現在の発達状況など、機会を逃さずにきちんと話し合い、その時々の子どもの思いに即した目標や指導方法で細やかに対応できた成果であると思われる。	今後も児童の発達状況や思いに応じた目標、指導方法だけでなく、家庭や事業所での対応などもよく話し合い、必要に応じて相談支援専門員を活用して共通理解を広げていきたい。
			【目標指数】子どもの思いや実態に沿った指導の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 12 43%				
—小学部—	授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。	小学部 保護者	授業公開日の様子や日々の連絡帳、指導計画の評価などから、子どもの成長を感じることができたか。(満足度指標)	A 21 75%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、児童の指導の在り方についてや保護者への伝え方について学部全体で検討する。	保護者懇談会を通して個別的教育支援計画や指導計画について、保護者と話し合いを深め、成長への共感を持ってもらえるよう努めた。また、日々の連絡帳や話し合い、授業公開等を通して児童の様子を丁寧に伝えることで、成長を感じてもらえたのだと思われる。	今後も日々の連絡帳や話し合い、授業公開等を通して、児童の成長している様子をより細やかに伝え、更に成長を実感できるようにしていきたい。
	【目標指数】子どもの成長を感じる目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 7 25%	C 0	D 0				
教育課程 ・ 学習指導	生徒の特性や実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況に沿った授業づくりに取り組む。	中学部 保護者	生徒の特性や実態に応じた目標設定や支援方法について、クラスの教員と話し合いができたか。(満足度指標)	A 19 58%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、生徒への指導の在り方や保護者への伝え方などについて各課程及び学部全体で検討する。	保護者懇談会を通して個別的教育支援計画や個別の指導計画の目標や支援方法について、保護者と話し合いを深め、共通理解を持った。また、連絡帳や送迎時を利用して日々の様子を伝え、保護者との意思疎通及び連携に努めた成果であると思われる。	今後も保護者懇談会などで、生徒の実態や身に付けさせたい力などについて保護者と十分に話し合い、それらを踏まえた目標設定や支援方法について共通理解を図っていきたい。
			【目標指数】生徒の特性や実態に応じた目標設定や支援方法の話し合いの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 13 39%				
—中学部—	授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。	中学部 保護者	授業公開日の様子や指導計画の支援方法などからみて、子どもの実態に沿った指導が行われていたか。(満足度指標)	A 20 61%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、生徒への指導の在り方や保護者への伝え方などについて各課程及び学部全体で検討する。	授業公開日には、多数の保護者に授業を参観していただいた。保護者懇談会で個別の指導計画等について保護者と話し合い、共通理解を持って指導したことで、生徒の学校での様子について理解を得られたと思われる。	今後も将来の姿を意識した指導目標や支援方法について保護者と共通理解を図り、保護者懇談会や連絡帳などを通して、生徒の成長している様子を保護者に丁寧に伝えていきたい。また、継続して授業参観への参加を促していきたい。
	【目標指数】子どもの実態に沿った指導の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 12 36%	C 1 3%	D 0				
教育課程 ・ 学習指導	生徒の実態を把握し、ICT機器を活用しながら、分かりやすい授業づくりに取り組む。	高等部 保護者	学校でICT機器(iPad等)を活用していくことは、子どもの将来の自立や主体的な活動に向けて役に立つか。(満足度指標)	A 58 68%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、ICT機器の活用事例について保護者に紹介する。	昨年と比較してA評価が増えており、ICT機器を活用することは、概ね同意を得られる結果となった。学習の場面だけでなく、生活の支援ツールの一つとして、ICT機器をさらに活用できるようになるとよい。	具体的な活用例について、情報を共有していくことが必要と思われる。また、家庭でICT機器を活用している生徒もいるため、家庭での活用の仕方についての情報をいただき、学校でも取り入れていきたい。
			【目標指数】ICT機器(iPad等)の活用に関する目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 24 28%				
—高等部—	授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。	高等部 保護者	将来の姿を意識した目標や支援方法について、クラスの教員と話し合いができたか。(満足度指標)	A 51 60%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、保護者懇談会や授業の内容について検討する。	保護者懇談会を利用して、生徒一人一人に必要な学習内容を検討した。また、将来の進路についての内容は進路相談会を設定して共通理解を図った。これらの取組を通して、理解を得られたと思われる。	年度初めに設定されている保護者懇談会に加えて、必要に応じて話し合いの機会を持つようにしたい。将来の生活を見据えて外部の機関との連携が重要になるため、本人・保護者・学校・関係機関で情報を共有していきたい。
	【目標指数】将来の姿を意識した目標設定や支援方法の話し合いの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 30 35%	C 3 4%	D 0				
生活の指導 —舎務部—	寄宿舎生の特性や実態を把握し、基本的な生活習慣が身に付くよう環境作りや支援方法を工夫する。	寄宿舎生 の保護者	子どもの基本的な生活習慣に関する目標や支援方法について、保護者懇談会や連絡帳などを通して指導員と話し合い、理解することができたか。(満足度指標)	A 29 64%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、支援方法の在り方や保護者への伝え方を検討する。	保護者懇談会や送迎の際に支援方法について話をしたり、連絡帳を用いて寄宿舎生の変化の様子を細かく伝えたりした。また、連絡帳で伝える際は、「不明な点があればお聞きください」など、保護者が質問しやすい配慮をしたことで、目標指数の達成につながったと思われる。	保護者に目標や支援方法を伝えるときは、寄宿舎での様子を細かく伝えるだけでなく、支援に用いているグッズを提示することで、保護者がさらに理解しやすいように配慮していきたい。また、連絡帳を記入するときは、保護者の立場になって、分かりやすい表現や文章を心掛けていきたい。
	【目標指数】基本的な生活習慣に関する目標や支援方法についての理解の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B 15 33%	C 1 2%	D 0				

※パーセンテージは、小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

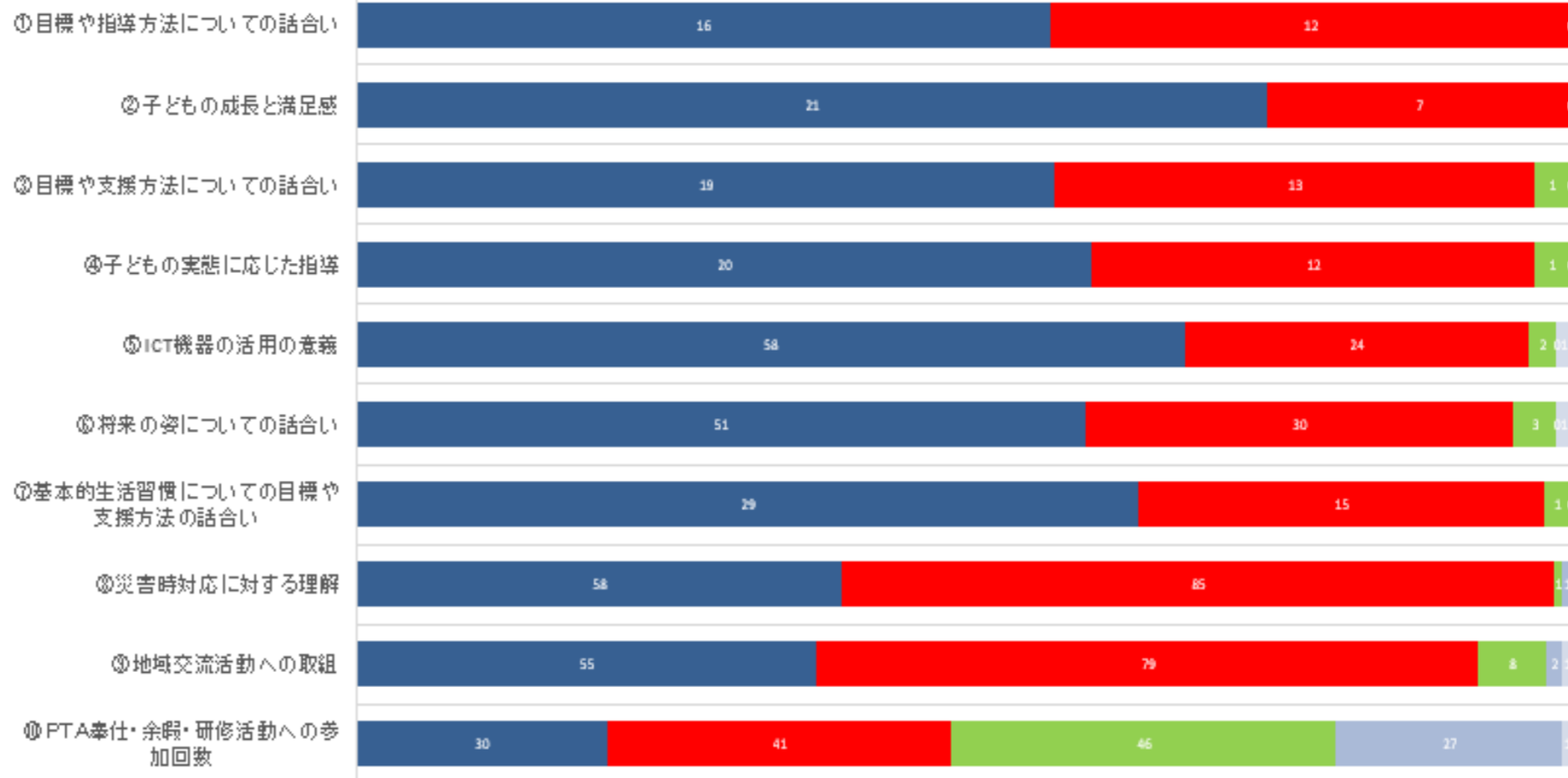
## H30 学校評価総合シート 保護者

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	成果と課題	改善策・向上策	
危機管理 (学校全体)	保護者に学校の取組を周知するとともに、災害時引き渡し訓練を通じ、災害時の対応について理解啓発を図る。	保護者	災害時訓練（メール受信・引き渡し訓練など）や「防災だより」等を通して、災害時対応に対する理解を深めることができたか。（満足度指標）  【目標指数】保護者の危機管理に関する理解啓発の目標指数（A+Bの合計）が80%以上	A	58	40%	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、保護者に対して取り組んだ内容等の周知を図る方法を再検討する。	災害時の対応について、児童生徒の安全を第一に見直しを進めていることにより、目標指数を達成できたと思われる。
				B	85	59%		
				C	1	1%		
				D	1	1%		
				無	0			
交流促進 (学校全体)	地域の小中学校、高等学校、企業等との交流活動に取り組む。 (交流活動＝居住地校交流、学校間交流、地域企業との交流、校外学習における地域での交流など)	保護者	学校は、地域との交流活動（学校間交流、居住地校交流、地域企業との交流、校外学習における地域との交流等）に取り組んでいるか。（満足度指標）  【目標指数】児童生徒の地域での交流活動推進の目標指数（A+Bの合計）が80%以上	A	55	38%	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、保護者に対して取り組んだ内容等の周知を図る方法を再検討する。	居住地校交流では、交流を希望する全ての児童生徒が地域の学校と交流を行うことができた。また、学校間交流では、相手校と連携を図ることで双方の児童生徒のかかわる場面が多く見られる交流となった。これらの取組により目標指数を達成できたと思われる。
				B	79	54%		
				C	8	6%		
				D	2	1%		
				無	1	1%		

### PTA活動アンケート（学校評価アンケート付属）

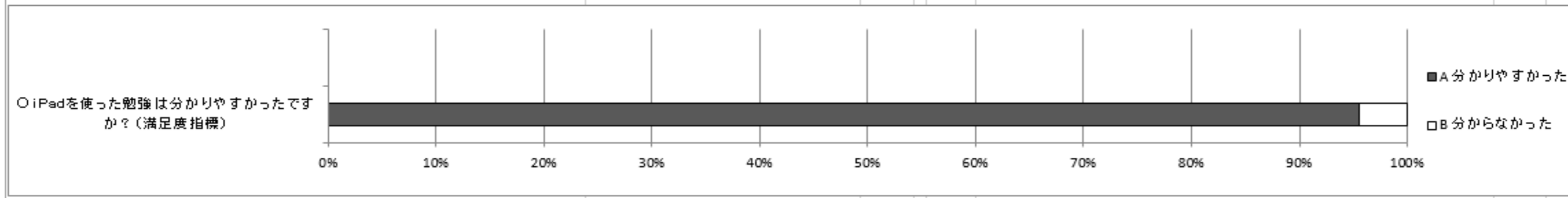
回答者	観 点	判断基準		
全保護者	PTA活動に何回参加できたか。[総会、役員会、夏休み親子の日、交流レクリエーション、除草作業、学校行事準備、教育視察、子育て講座、ボウリング大会、県知P連活動等]	A	30	21%
		B	41	28%
		C	46	32%
		D	27	19%
		無	1	1%

■ A 十分できた ■ B おおむねできた ■ C あまりできなかった ■ D 全くできなかった ■ 無回答・無効



### H30 学校評価総合シート 生徒

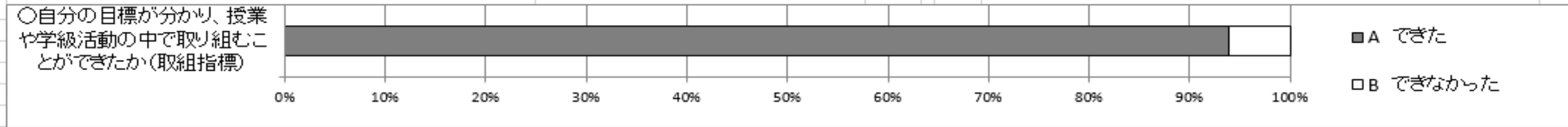
項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準			判定基準	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 ・ 学習指導 -高等部-	生徒の実態を把握し、ICT機器を活用しながら、分かりやすい授業づくりに取り組む。	高等部 職業・作業 グループ生徒	ICT機器を活用した授業は、分かりやすかったか。 (満足度指標)	A	65	96%	達成	昨年度と同様に、ほとんどの生徒が「ICT機器を使った授業が分かりやすかった。」と回答した。授業の内容について映像で確認したり、iPadを使って自分で調べたりするなど、学習に取り組みやすかったようである。	今年度は、生徒一人一台のiPadが割り当てられた。個々の学習内容に応じたアプリケーションを導入するなど、学校資産としての整理が必要となる。また、セキュリティ機能やアップデートに対応することも重要なため、情報管理部を中心に対応していきたい。
			【目標指数】ICT機器を活用した学習理解の目標指数(Aが80%以上)	B	3	4%			
			無	0					



A 分かりやすかった理由(複数回答)	
「調べる」勉強	27
「ビデオを見る」勉強	3
「写真を使った」勉強	18
「アプリを使った」勉強	25
「その他」	
B	
国数で何を調べたらいいかわからなかった。	1
記載なし	1
レポートの使い方が難しかった	1

### H30 学校評価総合シート 生徒

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	成果と課題	改善策・向上策	
教育課程 学習指導 —高等部—	縦割研究会等を通して、指導内容表を検討し、学部間の連携を深める。	高等部 職業・作業 グループ 生徒	自分の目標が分かり、取り組むことができたか。(取組指標)	A	62	91%	回答者のAと判断した割合が80%未満の場合は、Bの内容を検討して、個別指導にあたる。	クラスで自分の目標を考えたり、作業学習の始めに今日の目標を考えたりした。多くの生徒が自分の目標を意識していることが確認できた。前年度と同様に高い評価が得られたことから、一人一人が目標を意識できていたようである。
			【目標指数】自分の目標に関する取り組みの目標指数(Aが80%以上)	B	4	6%		
			無	2	3%			
				達成			教室に目標を掲示する、授業の始めに確認するなどして、自分で目標を意識できるように工夫をしていきたい。また、目標に対して自分で評価する時間も大切にしたい。	



A できた内容(複数回答)	回答数	B できなかった内容(複数回答)	回答数
自分の目標として、自分からあいさつをすることに取り組んだ。	11	先生や家族と話し合わなかった。	1
自分の目標として、はきはきと受け答えをすることに取り組んだ。		目標を知らなかった。	
自分の目標として、わからないときには、自分から質問をすることに取り組んだ。	3	目標を忘れた。	
自分の目標として、言葉遣いに気を付けて丁寧に話すことに取り組んだ。	3	目標がむずかしくてできなかった。	
自分の目標として、嫌なことがあっても自分の気持ちを切り替えることに取り組んだ。	4	やりたい目標ではなかった。	
自分の目標として、友達の気持ちを考えて、仲良くかかわることに取り組んだ。	2	取り組みたくなかった。	
自分の目標として、自分の気持ちをきちんと相手に伝えることに取り組んだ。	4	何をしたらいいか、どうしたらいいかがわからなかった。	1
自分の目標として、早寝早起きをすることに取り組んだ。	1	自分ひとりたときんちょうして、できなかった。	
自分の目標として、好き嫌いしないでバランスよく食事することに取り組んだ。		欠席が多く取り組めなかった。	1
自分の目標として、運動をして体力を付けることや体重増加に気を付けることに取り組んだ。	2	身だしなみを整えられなかった。	1
自分の目標として、身の回りの整理整頓や身だしなみに気を付けることに取り組んだ。	1		
自分の目標として、時計を見て行動したり、時間の使い方を考えたり、遅刻しないよう行動したりすることに取り組んだ。	2		
自分の目標として、予算をたてて一人で買い物をするに取り組んだ。			
自分の目標として、料理や洗濯などできるだけ家事をすることに取り組んだ。	1		
自分の目標として、バスなどの公共交通機関を使って、学校や実習先に通うことに取り組んだ。	4		
自分の目標として、余暇の時間に好きなことを見つけ、過ごすことに取り組んだ。	1	A できた内容(複数回答)	
自分の目標として、時間いっぱい集中して作業や勉強をすることに取り組んだ。	7	掃除を頑張った	1
自分の目標として、いろいろなことに挑戦することに取り組んだ。	1	虫の克服	1
自分の目標として、学級活動や委員会活動、部活動などで自分から積極的に行動することに取り組んだ。	2	パーソナルスペースを守る努力をした	1
自分の目標として、忘れ物をしないようメモを取るなどの工夫をすることに取り組んだ。	1	不良品をなくせた	1
まわりを見て協力ができた	1	実習日誌を毎日書けた	1
時間の使い方を考えて行動する	2	コミュニケーション力を高めた	2
授業の前にトイレに行くように意識した、授業中のトイレの回数	2	指摘されたことを守ることができた	1
製品を大切に扱う	1	清潔面を気を付けた	1
よく使う漢字を少し書けるようになった	2	新しいことにチャレンジした	1
体育を頑張った(縄跳び、持久走の腕ふり)	3	疲れたときにもう一踏ん張りがんばる	1
アプリの使い方を理解できた	1	ダンボールの数を前日より増やせた	1
当番の仕事早くすませる	1	くっぴもを結べるようになった	1
作業の目標に取り組んだ	1	しつこくかかわらない	1
注意されたら素直に「はい」ということ	1	提出物をしっかり出せた	1

H30 学校評価総合シート 教職員

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数			判断基準			判定基準	成果と課題	改善策・向上策
			A	B	C	A	B	C			
教育課程・学習指導	児童の実態を的確に把握し、児童の思いや実態に沿った授業づくりに取り組む。	小学部 教員	児童の実態を的確に把握し、児童の思いや実態に沿った授業づくりに取り組む。	A	4	20%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、児童の実態把握や授業の在り方について学部全体で検討する。	児童の障害特性や発達段階、興味・関心を把握し、目標や指導内容についてクラスの教員で十分な話し合いを持った。また、児童が主体的に活動できる教材や場の設定、かかわり等の学習環境づくりに取り組んだ成果だと思われる。	今後も児童の実態を的確に把握し、障害特性や発達段階に合った目標設定をしていきたい。また、学部全体で共通理解を図りながら、教材や指導内容、かかわり方を工夫し、児童が主体的に学ぶ力を伸ばしていきたい。	
	【目標指数】児童の実態把握や授業づくりの目標指数(A+Bの合計)が80%以上		B	16	80%						
	C	0									
	D	0									
	無	0									
一小学部	授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。	小学部 教員	学部研究会を通していろいろな授業の意見交換をし、研究会で出た意見を取り入れ、授業改善に生かすことができたか。(成果指標)	A	11	55%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、授業改善など積極的に互いの意見を交換できる研究会の運営の在り方や授業実践について検討する。	授業参観や学部の授業研究会を通していろいろな授業のやり方や教材を見たり、意見交換をしたりすることで、新しい視点や指導方法に気づき、授業を改善できた成果であると思われる。	今後も授業参観や授業研究会を通して、いろいろな授業を見たり、たくさん意見交換をしたりすることで、授業をより改善していける視点や指導方法を獲得していきたい。	
【目標指数】研究会で出た意見を取り入れ、授業改善に生かすことの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B		9	45%							
	C		0								
	D		0								
	無		0								
教育課程・学習指導	生徒の特性や実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況に沿った授業づくりに取り組むことができるか。(取組指標)	中学部 教員	生徒の特性や実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況に沿った授業づくりに取り組むことができるか。(取組指標)	A	7	35%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、生徒の実態把握や授業の在り方について各課程及び学部全体で検討する。	クラスの教員や授業担当で、生徒の障害特性や実態について十分に話し合い、生徒の生活年齢や発達状況を意識しながら目標や指導内容を考えた。授業を行う際には、生徒一人一人の目標を意識しながら授業づくりに取り組んだ成果だと思われる。	今後も生徒一人一人の障害特性や実態を把握し、生徒の生活年齢や発達状況を意識しながら、授業担当で指導目標や指導内容について十分に話し合いをし、授業づくりに取り組んでいきたい。	
	【目標指数】生徒の実態に沿った授業づくりの目標指数(A+Bの合計)が80%以上		B	13	65%						
	C		0								
	D		0								
	無		0								
一中学部	授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。	中学部 教員	授業研究会を通していろいろな授業の意見交換をし、研究会で出た意見を取り入れ、授業改善に生かすことができたか。(成果指標)	A	12	60%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、授業改善など積極的に互いの意見を交換できる研究会の運営の在り方や授業実践について検討する。	授業参観や学部の授業研究会を通して他課程での授業の様子を知ったり、意見交換を行ったりした。研究会で得た意見をもとに指導内容や学習環境等について自分の授業を振り返り、見直した成果であると思われる。	今後も学部全体で他課程での取組についても理解を深め、意見交換の機会を設定し、その中で得られたことを自分の授業実践に生かし、個に合わせた自立に向けて指導をしていきたい。	
【目標指数】研究会で出た意見を取り入れ、授業改善に生かすことの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B		7	35%							
	C		1	5%							
	D		0								
	無		0								
教育課程・学習指導	生徒の実態を把握し、ICT機器を活用しながら、分かりやすい授業づくりに取り組む。	高等部 教員	授業や生活指導の中でICT機器を活用することができたか。(成果指標)	A	15	35%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、ICT機器の活用について研修をする。	視覚的に情報を得られること、自分で操作して学習が進められることなどから、生徒も理解しやすいため、ここ数年、学習にICT機器を活用することが増えてきた。そのため、C評価が減り、B評価が増えたと思われる。	授業の中でICT機器を使った学習を進めてきた。調べ学習や自分の行動の振り返りに活用するなど、有効な事例を積み重ねていきたい。操作以外の観点からは、情報モラルについての学習も必要であるため、学習の中に組み入れて進めていきたい。	
	【目標指数】ICT機器の活用の目標指数(A+Bの合計)が80%以上		B	25	58%						
	C		3	7%							
	D		0								
	無		0								
一高等部	授業研究会等で得た意見を取り入れながら、授業改善に取り組む。	高等部 教員	授業研究会を通していろいろな授業の意見交換をし、研究会で出た意見を取り入れ、授業改善に生かすことができたか。(成果指標)	A	12	28%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、授業改善など積極的に互いの意見を交換できる研究会の運営の在り方や授業実践について検討する。	教科ごとに授業研究会を行い、授業のアイデアを出し合った。教材教具の工夫や授業の進め方、対象となる生徒に応じた授業内容の設定などを話し合った。研究会で得られた意見をもとに、自分の授業を振り返り、見直した成果であると思われる。	今後も授業参観や授業研究会を通して授業改善に努めたい。生徒一人一人の障害特性や実態に応じて工夫できることを、学部内、教科内で共有していきたい。	
【目標指数】将来の姿を意識した授業づくりの目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B		29	67%							
	C		2	5%							
	D		0								
	無		0								
生活の指導	寄宿舎生の特性や実態を把握し、基本的な生活習慣が身に付くよう環境作りや支援方法を工夫できたか。(取組指標)	寄宿舎 指導員	寄宿舎生の特性や実態を把握し、基本的な生活習慣が身に付くよう環境作りや支援方法を工夫できたか。(取組指標)	A	21	84%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、環境作りや支援方法の工夫について検討する。	毎日の階ごとの話し合いをもとに、保護者や学級担任との情報交換を行ったことで、寄宿舎生の特性や実態把握ができたと思われる。また、保護者や学級担任との連携を図り、支援を行ったことで、支援方法や環境作りの工夫につながり、目標を達成できたと思われる。	研修や話し合いの場を充実させ、より指導員のスキルを向上させることで、今まで以上に寄宿舎生一人一人に合わせた支援や環境作りを行っていきたい。	
	【目標指数】基本的な生活習慣が身に付くための環境作りや支援方法の工夫の目標指数(A+Bの合計)が80%以上		B	4	16%						
	C		0								
	D		0								
	無		0								
一舎務部	寄宿舎生の基本的な生活習慣が身に付くよう生活指導内容表を指導員間で検討し、活用することができたか。(成果指標)	寄宿舎 指導員	寄宿舎生の基本的な生活習慣が身に付くよう生活指導内容表を指導員間で検討し、活用することができたか。(成果指標)	A	21	84%	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、生活指導内容表の活用方法を検討する。	寄宿舎生の目標や支援方法を考える際、生活指導内容表を活用した。また、生活指導内容表の項目の整理や検討を行ったことで、より活用する意識が高まり、目標が達成できたと思われる。	生活指導内容表が活用しやすくなるように、支援方法をより具体的に、寄宿舎生の目標設定がしやすいように今後も内容の改善を行っていきたい。	
【目標指数】基本的な生活習慣が身に付くための生活指導内容表の検討と活用の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	B		4	16%							
	C		0								
	D		0								
	無		0								

※パーセンテージは、小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

## H30 学校評価総合シート 教職員

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判断基準	判定基準	成果と課題	改善策・向上策
危機管理 (学校全体)	情報管理・不審者対応も含めた危機管理体制を整備するとともに、個々の役割について理解を深める。	全教職員	危機管理に関する研修・訓練を通じて、緊急時の自分の役割についての理解を深めることができたか。(成果指標) 【目標指数】危機管理における個々の役割理解の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	A 58 47% B 61 50% C 4 3% D 0 無 0	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、見直し方法を再検討し、全職員で共通理解を図る。 学校防災アドバイザーによる教職員研修を実施し、災害時の対応について教職員の危機管理意識を高めることができた。また、様々な状況を想定した避難訓練を実施を通して、危機管理マニュアルを見直しを行った成果であると思われる。	次年度についても、専門家の助言を受けながら本校に合わせた危機管理体制の整備に努めていきたい。
	保護者に学校の取組を周知するとともに、災害時引き渡し訓練を通じ、災害時の対応について理解啓発を図る。	全教職員 (事除く)	学校は、保護者に「防災だより」や「学校ホームページ」等を通して、危機管理に関する取組の情報提供ができたか。(成果指標) 【目標指数】保護者の危機管理に関する情報提供の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	A 50 45% B 59 53% C 3 3% D 0 無 0	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、見直し方法を再検討し、全職員で共通理解を図る。 「防災だより」13~16号の発行や学校ホームページへの掲載による情報提供を行った。これらの取組により目標指数を達成できたと思われる。	災害引き渡し訓練をはじめとする取組が、保護者の防災意識の向上及び連携の強化につながるように、工夫を重ねていきたい。
交流促進 (学校全体)	地域の小中学校、高等学校、企業等との交流活動に取り組む。 (交流活動=居住地校交流、学校間交流、地域企業との交流、校外学習における地域での交流など)	全教員 (養、舎、事除く)	地域との交流活動(学校間交流、地域企業との交流、校外学習における地域での交流、居住地校交流等)に取り組んでいるか。(取組指標) 【目標指数】児童生徒の地域での交流活動推進の目標指数(A+Bの合計)が80%以上	A 39 46% B 37 44% C 9 11% D 0 無 0	達成	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、見直し方法を再検討し、全職員で共通理解を図る。 今年度は国民体育大会・全国障害者スポーツ大会が本県で開催され、全県的な交流が図られたことにより、行事縮小等のため学校独自で行う交流は限られた。その中で、居住地校交流など地域との交流に取り組み、目標指数を達成できたと思われる。	本校の児童生徒がそれぞれの地域の中で生活していくために、共生社会の形成を推進する必要がある。今後も積極的に地域との交流活動を行っていきたい。

